

国語総合

受験番号	
氏名	

問1

ア	浸透
イ	把握
ウ	極限
エ	誤
オ	備

問2

a	あいまい
b	えそらごと
c	さと
d	ひんばん
e	ひそ

問3

あ	4
い	2
う	1
え	3

問4

ア	3
イ	2

問5

作者がどう感じたのか

※作者の感情や感動（八字）も可

問6

何が本質か

ゝ

るからだ。

問7

3

問8

（客観的に考える場合には）自分の経験や知識や立場を忘れること

（抽象的に考える場合には）表面的なもの、目の前に見えているものに囚われないこと

問9

仮定

問10

想像する行為が、現実認識にとって障害になるから

、	、	で	場	て	と	も	的	ら	物
抽	異	客	を	、	で	の	な	飛	事
象	質	観	忘	想	本	囚	情	躍	を
的	な	的	れ	像	質	わ	報	す	客
に	も	な	、	す	が	れ	を	る	観
考	の	な	自	る	わ	ず	捨	必	的
え	を	全	分	こ	か	に	象	要	、
る	受	体	の	と	り	同	す	が	抽
た	け	像	目	も	や	質	る	あ	象
め	入	が	で	必	す	な	こ	。そ	的
に	れ	見	は	要	く	も	と	の	に
大	る	え	な	だ	な	の	が	必	考
事	好	か	い	。自	る	だ	要	。た	え
な	奇	ら	視	分	か	と	だ	め	る
姿	心	だ	点	の	ら	仮	。表	に	は
勢	も	。持	を	経	だ	定	面	は	、
で	、	つ	持	験	。そ	す	的	、	現
あ	客	さ	つ	や	し	る	な	具	実
る	観	ら	こ	と	立	し	こ	体	か
。	的	に	と	立	し	こ	こ	体	か

計	問11	問10	問9	問8	問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1

2019年度一般入試 A日程

— 傾向と対策 —

国語総合

出題のねらい

大学生として必要な読解力と文章力、すなわち、論理的文章を読んで内容や論の組み立てを理解できるか、また、それについての自分の考えを表現する力があるかを問うことを目的として出題しています。ある程度の長さの文章を読んで、文章全体の構成や主旨を正しく理解し、設定された問題に応じて自分の意見をまとめることを要求します。年度によって文学史や文法の知識に関して出題することもあります。

出題形式・内容（分野）について

形式はこの数年変わっておらず、3000～3500字程度の文章とそれについての10前後の小設問で構成された大設問が1題というかたちで出題されています。出題範囲は現代文のみで論説文が多く、とくに文化論や社会学・心理学に関連した文章が多く出題されています。2019年度のA日程では森博嗣氏の『人間はいろいろな問題についてどう考えていけば良いのか』から出題しました。著者は大学教授であり人気作家としてたくさんの小説や文章を発表しています。物事を客観的、抽象的に考えることの意味を分かりやすく述べている文章から出題しました。基本的な漢字の読み、書き、語の補填の問題から内容を問う問題まで、11問を設定しました。まずは正確に文章を読みとっているかを把握することをねらいとしています。漢字に関しては大学生として様々な文献を読みこなしていかなければならないと考え、高校までの学習範囲に限らず、一般的なものをも含めて出題しています。また、論理の展開を踏まえてきちんと内容を押さえていることを確認するための設問を多くしてあります。問11はこの文章のテーマでもある「物事を客観的に、そして抽象的に考える」ためにはどうするかを150字以上200字以内でまとめるという問題です。200字でまとめることは試験時間の中では難しいと感じられるかもしれませんが、最初に問題に目を通したうえでポイントを拾っておき、解答に取りかかれば無理ではないはずです。今回は「捨象」「想像」という二つのキーワードを用いることを条件としました。残念ながらこの2語を用いていない解答が少なからずありました。このような指定はどのように答えればいいのかの大きなヒントになります。採点はすべて手作業で行っています。

採点後の感想・効果的な学習方法

「出題のねらい」にも書いたとおり、大学生として要求される基本的な読解と表現の力を問う出題ですので、普段からいろいろな文章を読み、考え、書く習慣をつけておくことが大切であると考えます。同時に設問の要求することを正確に読みとり、それに応えていくことも必要です。たとえば「抜き出し」なのか、自分の言葉で「まとめ」なのか、何字で書くことを要求されているのか、といった「きかれたことにきちんと答える」という姿勢がもっとも大切です。繰り返し出てくる表現もキーワードとしてしっかり押さえましょう。また、キーワードや字数の指定は「抜き出し」たり「まとめ」たりするための大きなヒントになります。